

# 明日放送の「世界ふしぎ発見」必見!

## 幕末サムライ英会話教室

### 城陽市ゆかりのジムさんが案内役

### 米国バ市近郊生れのマクドナルド特集

日本を鎖国の情眼から自覚めさせたアメリカの黒船開官ペリー提督。そのペリー提督と巧みな英語で渡り合ったサムライが居た。歴史の表舞台に登場することのない森山栄之助なるサムライに英語を教えたのが、幕末の日本に密入国した冒険家ラナルド・マクドナルド。城陽市の姉妹都市アメリカバンクーバー市と関わりが深いマクドナルドが明日2日(土)午後9時から放送される第988回「世界ふしぎ発見」で紹介される。番組では、平成15年11月に城陽市国際交流協会の招きで城陽市を訪れ、講演を行ったバンクーバー市在住で「アメリカ・ラナルド・マクドナルド友の会」のジム・モックフォード会長(52)が、インタビュウを受けている。



マクドナルドが活躍した舞台裏のラナルド

マクドナルドは1824年、アメリカバンクーバー市近郊でスコットランド人の父とイ

補綴子著の「海嶺」で知られる)に興味を持ち、日本に渡ることを決意。1848年5月、アメリカの補綴船と日本に連れていってもらう契約を交わし、北海道の利尻島から小さなボートで単身上陸。幕府に捕らえられ、外国との唯一の窓口長崎に送られ7カ月間座敷

に軟禁される。マクドナルドは持ち前の積極性や人なつこい性格、冒険心などで役人らと心を通わせ、幕府もまた英語の必要性を密かに認識していた。こうしてマクドナルドは、「日本初の英語教師」として幕府のオランダ語通訳者14人に英語を教える。教え子の中で最も優秀だったのがペリー提督と外交交渉を行った森山栄之助だった。マクドナルドは1849年にアメリカの軍艦アプレル号

で帰国。1894年に亡くなる最後の言葉が「サヨナラ」だった。モックフォード会長は、マクドナルド研究の第一人者。オレゴン大学のアジア学科と日本語学科を卒業。早稲田大学への留学、20回以上にもおおよぶ日本訪問、1983年にはアメリカ下院議員グループに同行して来日、当時の中曽根総理、三木元首相らとの交流も深めた経歴を持つ。日本の文化、芸術に造詣が深く、日本語はアメリカの高校で教えていたほどペラペラ。

平成15年11月に、城陽市の東部コミセンで行った講演では、多くのマクドナルドに関する資料を持参、「宗教を広めるためでも、商売でもない、まして占領するためでもなく、ただそこに居る人達と知り合っただけ、命がけで太平洋を渡ったマクドナルドこそ国際交流の原点」などと熱く語った。

「世界ふしぎ発見」は、「日米交流はここから始まった!幕末サムライ英会話学校」のタイトルでミステリーハンターの坂本三佳さんが、黒船来航の舞台裏でくり広げられた幕末の人間ドラマに迫る。モックフォード会長は、インタビュウを受けるが、流暢な日本語が話せるにもかかわらず、番組構成上英語でしゃべっている所もちょっとした見所に。

【藤本博】